

## プラネタリウムと恐竜展 : 浜松科学館見学会の報告

著者	加藤 国雄
雑誌名	静岡地学
巻	94
ページ	59-60
発行年	2006-11-22
出版者	静岡県地学会
URL	<a href="http://doi.org/10.14945/00024818">http://doi.org/10.14945/00024818</a>

# プラネタリウムと恐竜展：浜松科学館見学会の報告

加藤 国雄

7月31日(月)西部支部では、高等学校理科教育研究会地学部会と合同で「プラネタリウムと恐竜展」を実施した。はじめに最新のプラネタリウムを、続いて「恐竜展～大空に羽ばたいた恐竜たち」を見学した。恐竜展で展示された化石の多くは最近中国で発見され、は虫類と鳥類の両方の特徴を兼ね備えていた。

## 1. プラネタリウム

開館20周年を迎えた浜松科学館では、これまでのプラネタリウムに替わり「ジェミニスターⅢ」と呼ばれる最新鋭のプラネタリウムが設置された。「ジェミニ」は「ふたご座」の意味で、光学式「インフィニウムS」とデジタル式「スカイマックスDS」の2つのプラネタリウムが一緒になったものである。天体の日周運動を表現するときに星の軌跡が表示されることや、天の川を構成する天体が、ごく小さな27万個の星一つひとつで表現してあることなど、従来と比べはるかに精密な映像が展開される。また日食の場合に、地上から宇宙空間まで、連続的に観察場所(観測者の視点)を変えて表現することが可能で、太陽と月と地球の立体的な位置を学ぶには大いに役立つと思われた。プラネタリウムを見ている人が宇宙空間を移動するとき、目の当たりにする景観も臨場感あふれる大パノラマで、360°のスクリーンをもつ映画館のようであった。詳細な技術や構造はともかく、「ジェミニスターⅢ」の表現力が従来のプラネタリウムより格段に進歩していることは確かであった。

## 2. 恐竜展

1861年にドイツのゾルンホーフエンでジュラ紀の地層から発見された化石は、は虫類と鳥類の特徴を併せ持ち、始祖鳥(アーケオプテリクス *Archaeopteryx*)と名付けられた。その後発見された始祖鳥の仲間の化石は合計9体で、いずれもゾルンホーフエン一帯から見つかったものである。アジアでは2004年7月、中国河北省で白亜紀の地層から始祖鳥の仲間の化石が発見された。この化石は華美金鳳鳥(ジンフェンゴプテリクス *Jinfengopteryx*)と命名され、ドイツの始祖鳥よりもやや原始的な特徴をもつこと、両者が近縁関係にあることなどが明らかになった。

河北省のとなり、察寧省では、1996年に原始中華竜鳥(シノサウロプテリクス *Sinosauropteryx*)が発見された。羽毛をもつことから小型の鳥類に分類された(それまで羽毛は鳥類だけの特徴とされてきた)が、その後の研究により恐竜に属することが明らかになった。は虫類と鳥類の分類区分は、今なお熱心に議論されている。

この10年余りの間に、羽毛をもつ恐竜や始祖鳥の仲間の化石が中国で発見され、は虫類と鳥類を結ぶ進化の道筋が次第に分かってきた。展示会場の出口付近では、ビデオによる説明を視聴することができた。それによると、河北省から遼寧省にかけての地域は、火山活動の毒ガスで多くの生物が死に、その上に火山灰が降り積もって短時間のうちに埋められるという特殊な条件があり、極めて保存状態の良い化石が大量に発見されたということである。鳥類型恐竜のほかにも、亀やほ乳類、一部は植物の化石も展示されていた。

テレビや新聞の報道により、最近中国では始祖鳥のような化石が発見されたいということを知っていたものの、公開された多くの化石とその説明を見ることで、より理解を深めることができた。静岡県地学会としての参加者は、中部支部からの参加者および非会員の参加者を含めて11名だった。